

令和4年度

幼稚園だより



実際に経験すること

令和4年11月30日
文京区立湯島幼稚園

園長 前田 宏子

園庭の木々からたくさんの葉が落ちています。きれいな色に変わった葉を集めて、ネックレスにして首から下げている子どもたちがいました。落ち葉をバケツ一杯に集めて、嬉しそうに見せてくれた子どももいます。今年はたくさんの実りをもたらしてくれました。ぶどうやざくろがたくさんなり、各ご家庭に持ち帰ることができました。歴代の先生方が未来の子どもたちのために実のなる木を植えてくださったその思いが今の子どもたちの園生活の中に生かされています。とても幸せなことだと思います。

4歳児ばら組、5歳児ゆり組が貸し切りバスであらかわ遊園に遠足に行きました。小雨の中での遠足になりましたが、学級の友達と遊園地での遠足を楽しむことができました。遊園地に行った後にゆり組では“秘密の相談”が始まりました。「みんなで遊園地（すーぱーわくわく遊園地）を作ろう」ということになり、いくつかのグループに分かれて乗り物を作りました。どんな形にするか？ということから話し合いをしていき、自分たちで材料を考えて作りました。話し合いを進める中では最初はそれぞれが意見を譲らず、平行線のまま話し合いが止まってしまっていました。時間はかかりましたが、話し合いを続けていくことで、それぞれが折り合いをつけて作っていくことができました。

“折り合いをつける”ということはなかなか難しいことです。自分の気持ちを押し殺すわけでもなく、相手を軽視するわけでもなく、お互いが納得できる方法を考えていくということです。日々の生活の友達との関わりの中で様々な経験を積んできたゆり組の子どもたちだからこそ、今回の遊園地の話し合いでもお互いの思いを出し合いながら話し合いを進めることができました。実際に自分で経験しないと折り合いのつけ方は分かりません。しかし、こういった経験をするにはたくさんの時間が必要です。幼児期のこの時期にこそ、たくさん経験してほしいことのひとつです。

先日の新聞記事に「科学の世界でも性急に役立つことを求められて研究者に余裕がない」と書かれていました。私にはそれは科学の世界に限らず、子どもの世界にも当てはまるような気がします。すぐに役立つことではないが後々大きな影響を及ぼすことはたくさんあるように思います。今の一瞬だけを見て一喜一憂するのではなく、これから先の未来に実りある生活をするにはどんなことが必要かを考えながら、経験を積み重ねていけるようにしたいと思います。湯島幼稚園の歴代の先生方が未来の子どもたちに思いを馳せ、木々を植えた思いと通ずるところがあると思います。

子どもたちは様々な経験を通して、たくさんのお話を学んでいます。来年もたくさんのお話を、学びにつなげていきたいと思っています。今学期も本園の教育活動について保護者や地域の皆様にご理解ご協力をいただいたことを感謝いたします。

皆様よいお年をお迎えください。